

月山山スキー山行報告

山行日：平成30年5月19日（土）～20日（日）

天候：快晴（午前中は強風）

登山方法：山スキー

メンバー：CL 菊池、井上（里）、池田（記録）

行動時間：

19日 18:40 菊池家出発－佐倉 IC、圏央道、常磐道経由で 23:15 寒河江 SA 着（芝生でテント泊）

20日 6:15 寒河江 SA 出発－8:00 姥沢駐車場－8:40 リフト終着－11:00 月山頂上－大雪城－13:30

月山頂上－15:30 姥ヶ岳－16:20 姥沢駐車場着－寒河江 SA で入浴後千葉 23:30 着

登り累計高度 1050m 移動距離 12.7km



1日目（19日）

富士山の雪が例年より少ないため、目的地を月山へ変更した。遠いので山スキーでは珍しいこと

だが、前日出発で一路山形を目指す。山形は夜半から雨の予報だが、寒河江 SA ではほぼ雨も上がり無事に芝生の上でテントを張れた。

2日目 (20日)

翌朝は6:30 出発予定だが、Kさんが早起きなので6:15に出発する。寒河江 SA から綺麗な月山が眺められて気分も盛り上がってくる。自分は、いやしくもスキーを始めてはや42年が経つが、月山でスキーをしたことが無いというのは非常に引け目を感じていて、いつかは月山で(アルペンの板で)滑りたいといつも思っていた。今日の道具は山用なのでそこは妥協しなければならない。

山道に入ってガソリンが少ないことに気づき、町まで戻ることになり、1時間くらいロスしてしまったが、リフトは8時からなので、それでも丁度良い時間に姥沢駐車場についた。

途中の見覚えのある道路標識が高いところにあった(2月は手が届く)。自分が山スキーの世界に入るきっかけを作ってくれたのは、ここでスノーシューハイキングをよくしていた時のガイドさんが、「池田さんは山スキーがいいんじゃないの」という言葉だったので、ある意味自分の原点に帰ってきたかと思うと感慨深い。

駐車場は十分な数の車が駐められた。リフトに乗るが、ビールの自販機が故障中でKさん残念。リフトを降りると大勢のスキーバカがいっぱい居てうれしくなる。やっぱりここは聖地だ。みんな顔が楽しそうでいい。冬は寒さのせいか顔がこわばってるが、暖かいこの季節はみんなニコニコしてる。



周りの景色を見渡すと、とにかく広い、しかも前日の雨がここでは雪だったようで、一面真っ白で最高に良い。登り出しはやや雪面が堅い状態だが、GWに買ったクトーもがっちり効いて快調に登る。

途中、草木に付いた氷結が朝日を反射して、まるでダイヤモンドの花が咲いているような光景に出会った。これはインスタにアップだと思ったが、写真の腕がいまいちでiPhoneで感動は伝わりそうにも無いのでアップは止めておいた。

斜面は広大なので好きなところを歩いて良いが、先行パーティの後を無難に歩く。



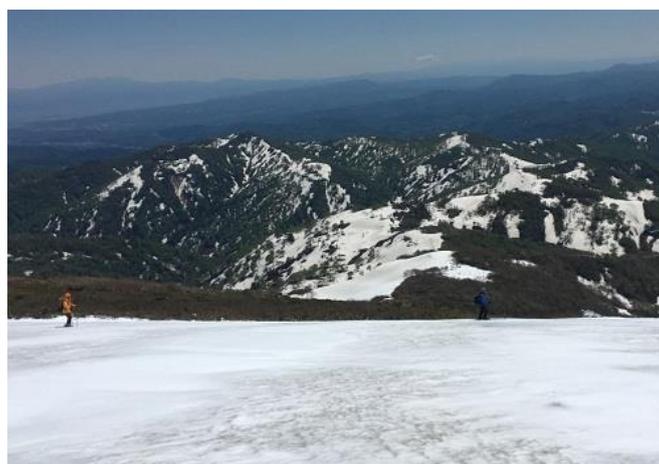
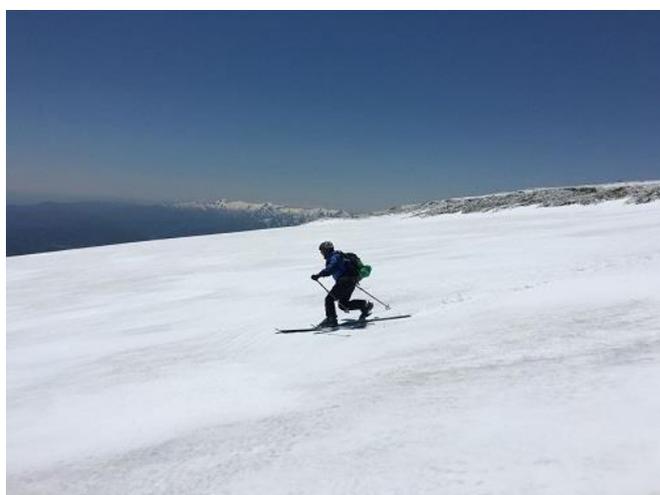
1750m くらいから雪が無くなり板を外して登山モード。後ろを振り返ると、まるで油絵のような残雪の白と新緑の緑が織りなす光景が眼前に広がっている。



200m ほどスキー靴で上がると頂上に着く。神社でお参りして東南方向に広がる大雪城をゆっくり滑る。この斜面もとにかく広い。月山は全てが広くて大きい。広いと言うことは目印があまりないので、ここでガスると遭難の危険性が高いと感じた。今はGPSがあるのでその心配はかなり低いですが、電池が無くなれば終わりである。でもスマホGPS講座は近々開催しようかなと考えています。



大雪城はゆっくりクルージングモードで滑り、登り返して頂上を経由して元来た斜面へ戻る。



その時にふと下を見ると板の上にネジが転がっている。スキー靴のつま先にある、アッパーカバーの留め具のネジ4本が全て無くなっていた。大きなトラブルでは無いので先を急ぐが、来週までにネジを入手できるか不安になる(帰葉後ジョイフル本田で無事入手)。スキー靴で岩場を下るのはいつもしんどい。登りはあった前日の新雪は溶けて道は岩だらけと化していた。庄内平野と日本海



を右手に見ながら滑り出しは斜度もあり快適に滑れたが、斜度が緩んでくると板が走らなくなってくる。5月6月の宿命である。真冬のように行かぬのはわかっているが、テンションは下がってくる。それでも最後の力を出して、姥ヶ岳への150mを登り返す。こちらはゲレンデに近いので、スキーヤーも多くなってくる。最後に姥ヶ岳から景色をゆっくり堪能してゲレンデを滑って帰って

きた。ゲレンデはコブ道場と化していて3人は無理せず荒れの少ないところを慎重に選びながら帰って来た。ゲレンデはそこそこ板が走り楽しく滑れる。やっぱりアルペンの板が欲しいと思いつつ、無事に駐車場へ到着した。



車で途中、Kさんは樵や水芭蕉の写真撮影、Iさんは山菜取りをしながらゆっくり山を下りて、寒河江SAに車を止めて、隣接する(SA敷地外)350円の安いけど源泉掛け流しのゆーチェリーという大きなお風呂にゆっくり入り、常磐道経由で千葉までの聖地巡礼の長い帰路についた。



次ページに残雪と新緑のブナ林、水芭蕉、GPSトラックを掲載しました。

